

【展示室3】 <新収蔵品展> 作品リスト

周南市美術博物館

2022年 3月1日(火)～27日(日) 月曜休館

寄贈作品・・・◆ ※展示順とは異なります。 ※各作家の略歴は裏面に紹介しています。

新収蔵作品								
NO.	部門	作家名	作品名	点数	制作年	材質(形状)	サイズ(縦×横cm)	
1	美術	宮崎進	雑誌「新潮」表紙原画 ◆	6	1980～1981(昭和55～56)年	1980年 表紙作品(水彩・紙) 1981年 表紙作品(油彩・キャンバス)		
2		まえだばくじ 前田麦二	いわしのず 鱒之図 ◆	1	1930(昭和5)年	油彩・キャンバス	23.9 × 32.8	
3		宮崎進	白い月 ◆	1	不詳		45.5 × 53.0	
4			ブランコ ◆	1			72.5 × 60.5	
5			テント	1			60.8 × 72.8	
6			芸人 ◆	1			52.8 × 79.9	
7		花 ◆	1	39.5 × 52.0				
8		おおばがくせん 大庭学僊	かくし ぎしゆくがず 郭子儀祝賀図	1	1893(明治26)年	絹本着色	130.0 × 56.4	
9		笹戸千津子	トルソ ◆	1	1969(昭和44)年	ケヤキ	40.7×30.0×141.0 (幅) × (奥行) × (高さ)	
10	歴史		ぼうちようえず 防長絵図	1	江戸時代中期～後期	紙本着色	56.8 × 124.6	
11			の ぎまれすけ 乃木希典旧蔵日露戦争関連書簡 ※3巻のうち2巻展示					
			山県有朋書簡 (乃木希典宛て)		差出年不詳	墨・紙	16.6 × 99.5	
			寺内正毅書簡 (乃木希典宛て)		1905(明治38)年		21.4 × 82.1	
	伊知地幸介書簡(乃木希典宛て)		22.8 × 109.3					
12	写真	笠木絵津子	「私の知らない母」 ◆ ※53点のうち10点展示	10	2019(令和元)年	銀塩紙		
13	特別 展示	うんこくとうえき 雲谷等益	りゅうこず びょうぶ 龍虎図屏風 (六曲一双)	2	寛永(1624～1644)初期	紙本墨画	(龍) 347.9×147.3 (虎) 347.9×147.8	

計13件

計 27 点

作家略歴

- 雲谷等益
(1591-1644) 萩藩の御用絵師。雲谷派の祖、雲谷等顔(とうがん)の次男として広島に生まれる。1604(慶長9)年に等顔とともに萩城の障壁画制作。長兄の早逝により雲谷宗家の二代目となり「雪舟四代」を唱えた。雲谷派の流派の体制化をはかり、周防・長門を中心に活躍した。京都・大徳寺瑞源院の創建にあたり襖絵などを制作する。他にも大徳寺では見性庵、大源庵、大慈院、清泉寺、碧玉庵にも襖絵を描く。1626(寛永3)年に法橋に叙せられた。
- 大庭学僊
(1820-1899) 日本画家。徳山の刀工三好與次兵衛(みよしよじべえ)の次男として生まれる。11歳で徳山藩の御用絵師朝倉南陵に師事し、南江と号す。のち京都に出て、小田海僊に師事し学僊と改名。独立し、萩で町絵師として活躍。維新後、東京に移り、南北両派を合わせ独自の画風をつくり、山水・花鳥画を得意とした。第1回内国絵画共進会審査員。明治宮殿杉戸絵の制作にも参加。晩年長府、下関へと移り住み、80歳で死去。
- 前田麦二
(1891-1974) 1891(明治24)年下松生まれ。のち徳山に転居。1926(大正15)年河上大二、久保白船らと徳山洋画協会を結成した。1929(昭和4)年に岸田劉生が徳山へ来た折には共に写生に出かけるなど交流をもった。椿貞雄に勧められ1931(昭和6)年に「小樽の風景」を国画会に出品し入選した。戦後は1946(昭和21)年に結成された防長美術家連盟に参加。1959(昭和34)年徳山市文化功労者。1971(昭和46)年昔の生活や風俗を記録した「徳山の思い出」を制作し1973(昭和48)年に画集『徳山の思い出』として出版した。
- 宮崎進
(1922-2018) 洋画家。徳山町(現・周南市)御弓町生まれ。1942(昭和17)年日本美術学校油絵科を繰り上げ卒業、同年入隊、戦後捕虜となりシベリアに抑留される。復員後、上京。1967(昭和42)年第10回安井曾太郎記念賞受賞。1972(昭和47)～74(昭和49)年渡仏、帰国後はアトリエを鎌倉に移す。1995(平成7)年小山敬三賞、1998(平成10)年第48回芸術選奨文部大臣賞、2007(平成19)年旭日小綬章受章。2009(平成21)年から周南市美術博物館名誉館長をつとめた。
- 笹戸千津子
(1948-) 彫刻家。徳山市(現・周南市)生まれ。東京造形大学美術学科彫刻専攻に一期生として入学、佐藤忠良に師事。卒業後、同大学彫刻研究室にはいる。1971(昭和46)年第35回新制作展に初出品、以後毎年出品をつづける。1973(昭和48)年同研究室修了と同時に佐藤忠良のアトリエで制作を始める。1977(昭和52)年新制作協会会員。1987(昭和62)年第18回中原悌二郎優秀賞受賞、1993(平成5)年第7回神戸具象彫刻大賞展招待出品、準大賞受賞。1998(平成10)年「ブロンズの華 笹戸千津子展」(徳山(現・周南)市美術博物館)開催。女性像を多く制作、全国のパブリックスペースに作品が設置されている。林忠彦賞受賞者に贈られるブロンズ像「爽」を制作。
- 笠木絵津子
(1952-) 兵庫県尼崎市生まれ。1977(昭和52)年奈良女子大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程修了。その後、京都大学基礎物理学研究所にて文部教官助手となる。1980(昭和55)年同研究所を退職、フリーカメラマンとなる。1992(平成4)年ニューヨーク大学大学院芸術研究科スタジオ・アート専攻修士課程修了。以後、現代美術家として活動する。2007(平成19)年第29回姫路市芸術文化賞、芸術年度賞受賞。2019(令和元)年第29回林忠彦賞を受賞。

〈乃木希典旧蔵日露戦争関連書簡〉関連人物略歴

①乃木希典
(1849-1912)

長府藩士の子として生まれる。萩の藩校、明倫館で学ぶ。その間、1866(慶応2)年には、第二次幕長戦争(四境戦争)で小倉口に出征し、負傷。その後陸軍軍人としての道を進み、萩の乱や西南戦争などの不平士族の反乱を鎮圧。さらに日清・日露戦争で戦い、陸軍大将となる。1896(明治29)年台湾総督。特に日露戦争では第三軍司令官として、苦戦の末、旅順港を陥落させた。明治天皇に殉じ、東京赤坂の自宅で静子夫人とともに自決した。

②山県有朋
(1838-1922)

陸軍軍人、政治家。萩藩士の子に生まれる。松下村塾に学ぶ。奇兵隊軍監として活躍。戊辰戦争では越後から会津を転戦。1869(明治2)年兵制調査のため渡欧、帰国後は徴兵制度の確立など近代軍政の基礎を築いた。西南戦争などの士族反乱を鎮圧し、軍人勅諭の発布に参画した。その後、伊藤博文とともに明治政府の最高指導者となる。1885(明治18)年、第一次伊藤博文内閣の内務大臣となり、地方自治制を制定するなど地方政治の確立に尽力。1889(明治22)年と1898(明治31)年に内閣総理大臣に就任。日露戦争では参謀総長を務めた。政党を嫌い官僚政治の保守に努めた典型的な藩閥政治家。元帥・元老として政界・軍部に絶大な影響力を持ち、「長州閥」に君臨した。

③寺内正毅
(1852-1919)

陸軍軍人、政治家。萩藩士の子に生まれる。戊辰戦争に従軍。維新後、大阪兵学寮に入り、1871(明治4)年陸軍少尉。1877(明治10)年の西南戦争で負傷し、右腕の自由を失った。1882(明治15)年フランスに留学し、士官養成法などを学び、のちに陸軍士官学校長となる。1902(明治35)年児玉の後任として第一次桂太郎内閣の陸軍大臣を務め、日露戦争では一時期教育総監も兼ねたが、陸軍大臣として大本营に参画し、戦争計画を推進。1916(大正5)年内閣総理大臣に就任。シベリア出兵を断行するが、米騒動により辞職。山県有朋、桂太郎につぐ「長州軍閥」の巨頭。

④伊地知幸介
(1855-1917)

陸軍軍人。鹿児島県に生まれる。大山巖の親類にあたる。日露戦争では、乃木希典司令官のもと第三軍参謀長に任命された。